

結 糸

[ゆい]

2022-23年 WAM 事業

生活困窮者世帯に対する包括的支援事業

連続講座実施のご報告

セミナー／講座／ワークショップ



認定特定非営利活動法人

育て上げネット

〒190-0011 東京都立川市高松町 2-9-22 生活館ビル

育て上げ

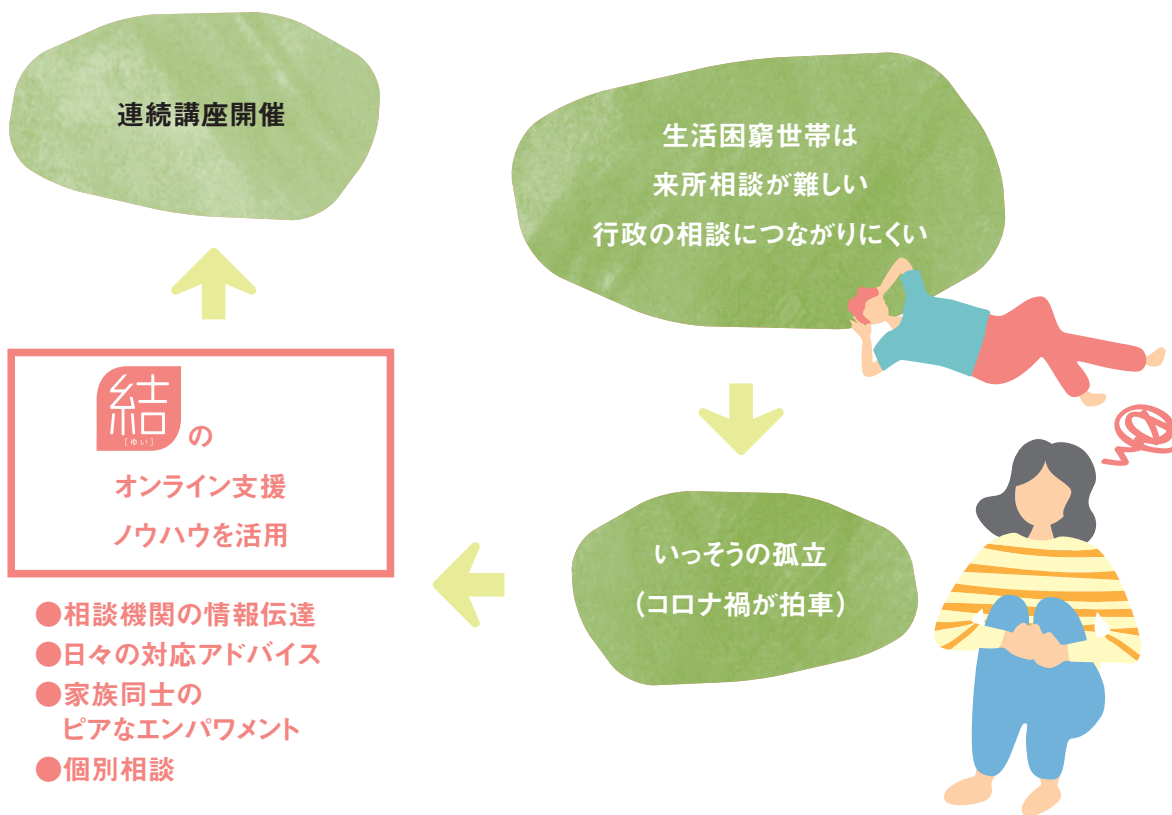
検索

www.sodateage.net





私たちの連続講座は家族を孤立させず相談機関へと誘導します。



子どもの将来相談窓口「結」は
本人と家族を支えます。

子どもの将来相談窓口「結（ゆい）」は、子育てや子どもへの自立に課題を感じている家庭に対し、親子関係の改善や子どもが自立するための支援を行っています。これまで、約二千世帯を支援してきました。

ひきこもり状態にある若者本人が相談窓口を訪れることはほとんどありません。たいていは、親（保護者）からの相談で支援がはじまります。こうした点を踏まえ、私たちは無理に子どもに接触せず、まず保護者をサポートし、徐々に家族単位の支援へと移行するシステムアプローチを採用しています。

コロナ禍で顕著になった
支援格差拡大が課題でした。

特に生活困窮家庭への支援では、経済的な制約ゆえに来所相談が難しい（時間がない、交通費がない）という課題がありました。コロナ禍においてこの傾向は顕著になり、支援につなぐことがさらに難しくなっています。

生活困窮家庭はそもそもIT機器を保有していない、ITリテラシーが

不足しているといった情報格差を抱えているケースも多く、オンラインによる支援も難しいのが実情です。また、困っていることを言語化できなかったり、行政主導の社会保障（生活保護、給付金など）が念頭になく、申請する発想が無いいため、各種支援が届きづらい状態になっています。

結果として、悩みを抱え込んでしまったり、家族全員が一緒にいる時間が長くなると家族関係が悪化したりしてしまいます。

悩みを抱えた家族と、いかにつながるか、いかに適切な支援とマッチングするかが課題となっています。

全国どこからでもつながる
オンライン連続講座開催。

「結」では、コロナ禍以前より、オンライン相談・セミナーを実施しており、そのノウハウを生かして、相談機関の情報伝達を伝え、日々の対応をアドバイスするオンライン連続講座を実施することにしました。

希望する家庭には、IT機器を貸し出し、使い方をレクチャーするなど情報格差の縮小に努め、全国どこからでもつながることで地域格差を解消します。



2022年度、連続講座を実施しました。

2022.08.22-26 子育て応援ウィーク	■中退・休学したときの対処法	参加人数	21名
	8月22日(月) 10:00-11:45、20:00-21:45		
	■急に始まった!反抗/罵声/無視	参加人数	24名
	8月23日(火) 10:00-11:45、20:00-21:45		
	■困ったときのSOSの出し方、頼れる相談先の探し方	参加人数	24名
	8月24日(水) 10:00-11:45、20:00-21:45		
2022.10.13 障がいのある子の兄弟姉妹「きょうだい児」 小児精神科医 湯浅 正太さん	■もしあなたが明日いなくなったら…	参加人数	25名
	8月25日(木) 10:00-11:45、20:00-21:45		
	■親がラクになれば子どももラクになる	参加人数	27名
	8月26日(金) 10:00-11:45、20:00-21:45		
2022.10.29 WORK SHOP 子どもに伝わる話し方		参加人数	6名
2022.12.19-23 子育て応援ウィーク	■中退・休学したときの対処法	参加人数	14名
	12月19日(月) 20:00-21:00		
	■急に始まった!反抗/罵声/無視	参加人数	16名
	12月20日(火) 20:00-21:00		
	■困ったときのSOSの出し方、頼れる相談先の探し方	参加人数	16名
	12月21日(水) 20:00-21:00		
2023.2.23 WORK SHOP もうひとりで抱えない	■もしあなたが明日いなくなったら…	参加人数	16名
	12月22日(木) 20:00-21:00		
	■親がラクになれば子どももラクになる	参加人数	14名
	12月23日(金) 20:00-21:00		
2023.3.10 システムズアプローチとは 臨床心理学者 東 豊さん		参加人数	9名
2023.3.10 システムズアプローチとは 臨床心理学者 東 豊さん		アーカイブ 視聴	449名
		参加人数	174名

*アーカイブ視聴は2023年4月16日現在

中退・休学したときの対処法…親が覚えておきたいポイント

覚えておきたいポイント

これはOK? それともNG?



高校も大学も中退率は約2%。
コロナ禍理由の中退も。

公立高校の中退率は2.1%、私立高校は2.4%。大学の中退率は1.95%、休学率は2.19%。つまり、高校でも大学でも50人に1人が学校を途中で辞めることとなります。

子どもが中退・休学を考えたとき、保護者は子どもにどのように対応すればいいのか……その対処法をアドバイスする講座です。

子どもが憂鬱な気分になりやすく、中退を考えるきっかけになる長期休

暇明けのタイミングで講座を設定すると、保護者に興味を持ってもらうことができ、効果的でした。

学校に行けない子どもの心理と保護者の心構え・対応方法。

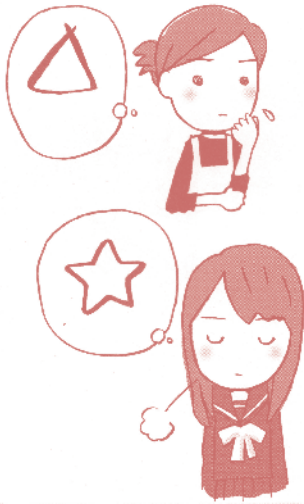
子どもが学校を休みはじめたとき、「学校を辞める」と言ったとき、保護者はどうすればいいのでしょうか。講座では、日常の家庭における具体的なシーンを提示し、どのような声かけが望ましいか、NG例とともに紹介します。子どもは保護者以上に傷つき、疲

れています。子どもをしっかり受け止めていく姿勢が持てるよう、本人の意思・意見を尊重した学校への介入方法、高校中退した場合に考えられる選択肢、大学の学生相談室の利用方法など、「中退・休学＝人生の終わり」ではないことを説明します。そのうえで、保護者が狼狽せずに対処できることをめざします。

さらに、学校を辞め、人生を模索した事例を紹介しながら、保護者に覚えておいてほしい3つのポイントを伝授。子どもの人生の岐路を見守る姿勢をアドバイスしていきます。

覚えておいてほしい3つのこと

親子の間に以心伝心はない



子どもの人生は子どものもの



子どもが生きる時代は新しい時代



困ったときのSOSの出し方…頼れる相談先の見つけ方

頼れる相談先の見つけ方

SOSを出しづらなのは
子どもも保護者も同じ。

文部科学省では、児童生徒の自殺予防のために「困難な事態、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付ける等のための教育（略称は「SOSの出し方に関する教育」）を推進しています。

これは、「子どもが、現在起きている危機的状況、今後起こり得る危機的状況に対応するために、適切な援助希求行動（身近にいる信頼できる大人にSOSを出す）をできるようにすること」ですが、もしかしたら、SOSを出し

づらいのは、大人である保護者も同じかもしれません。誰にも相談できず、1人で抱え込んでしまう保護者はとても多いのです。

保護者と本人の信頼づくりから相談先探し、相談の仕方まで。

まずは、「親は自分の言うことに耳を傾けてくれる。だから、思っていることを言っても大丈夫」と、子どもが保護者を信頼する関係づくりが必要です。

そして、問題を把握できたら、保護者として、子ども自身が相談・行動するのをサポートしていきます。

サポートにあたっては、頼れる相談先を探すことも重要になります。講座では「相談先のできることで、できないことを知る」「相談・解決の優先順位を考える」「現場に向き、雰囲気を知る」など、実際の支援機関を紹介しながら解説します。

こうしたSOSを出すにあたっての流れを説明しながら、「子どもが困っていると思ったとき、親は抱え込まず第三者とつながること」の重要性を知ってもらいます。

「子どもがSOSを出す↓保護者はそれを受け止めサポートする」を理解してもらおう講座です。

SOSにおけるサポートの考え方

①

「自分の言うことに耳を傾けてくれる」と本人が保護者を信頼できる関係を作ることが大事。



②

まずは、保護者が支援機関（第三者）とつながり本人を第三者につなげる工夫をする。



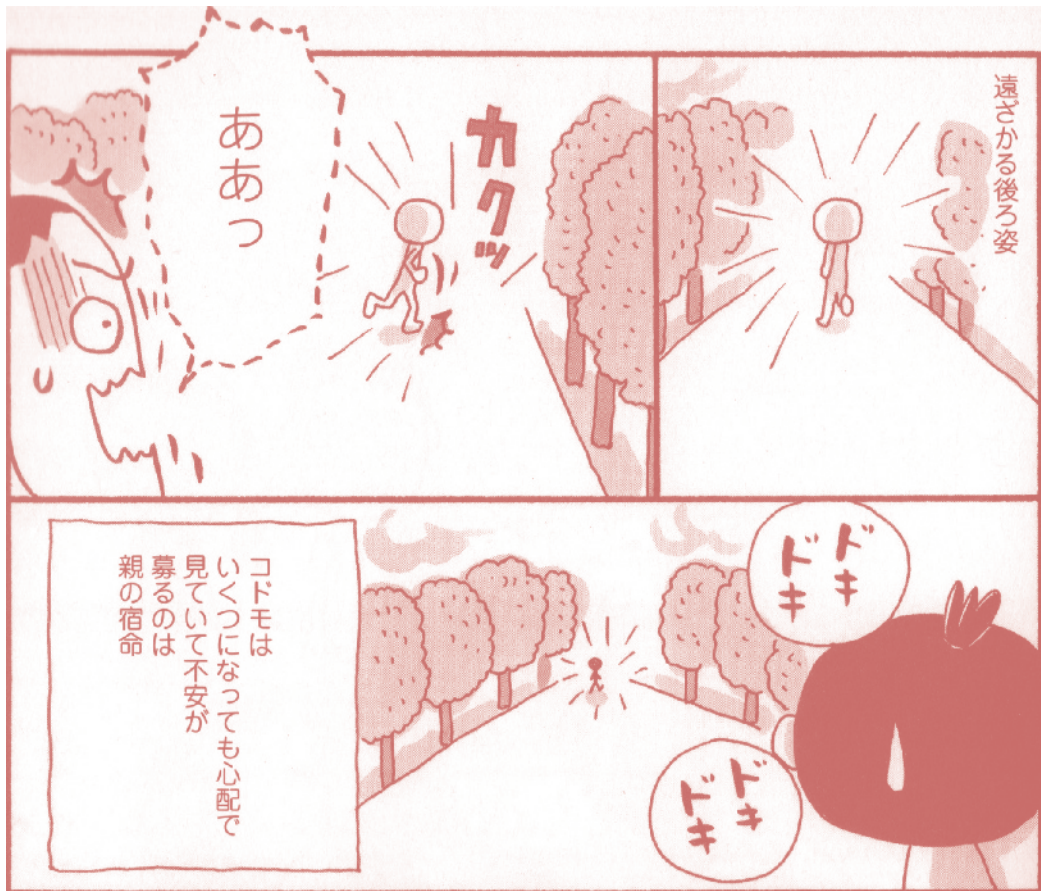
③

第三者と役割分担し、親は家で子が安心できるようサポートする。



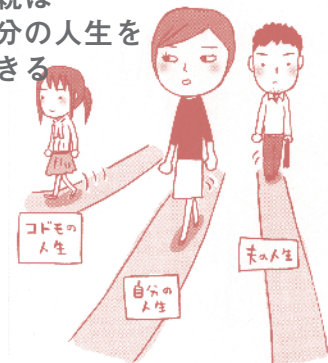


親がラクになれば、子もラクになる…まずは親から

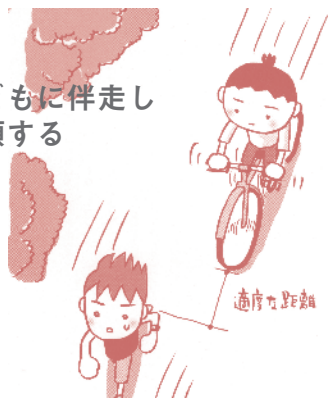


親離れ・子離れの考え方

母親は自分の人生を生きる



子どもに伴走し信頼する



「『S』子に育てなまきゃ」。「『S』母親にならなくちゃ」。

「私だけ楽しんでいいんでしょうか」と母親に聞かれたら、「結」では「ぜひ楽しみましょう」と答えます。

子ども本人は、ひきこもること、働かないことに罪悪感を持ち、「いたたまれない」「身の置き所がない」と感じています。保護者がラクになり、自分の仕事や趣味で家を留守にすれば、子どもは家でゆつくり息抜きができ、家庭のなかに好循環が生まれるのです。

とはいえ、保護者自身も「自分の育て方が悪かったのではないか」「どうしてこんなことになったのか」と自分を責めることが多く、家を留守にする

ことすら「こんなことをしていいのだろうか」と考えてしまいがちです。

さまざまなやり方でラクになる方法を考える。

家庭内で起こる悪循環の止め方、「イイ母親」「イイ子ども」の理想像から降りる方法、「自立している大人のつもりで付き合う」「問題が解決したつもりでふるまう」「つもり」作戦など、保護者自身が肩の荷を下ろせる手立てをアドバイス。よその家庭と比べるのではなく「我が家はこれでもいい」と納得した家庭の事例なども紹介します。

子どもをラクにするためにまず親からラクになるための講座です。



オンライン
喫茶 **結**
[ゆい]

2022年10月13日、WAMより助成を受けた
専門家によるウェビナーに湯浅正太先生が登場！

「きょうだい児、のケアだけでなく
親子のコミュニケーションについても語っていただきました。」

障がいのある子の兄弟姉妹 きょうだい児について 湯浅正太先生に 教えてもらおう



湯浅正太先生 Syota YUASA

小児科医（発達障害／知的障害などの障害児医療やてんかんを含む小児神経分野）・一般社団法人 Yukuri-te 代表理事
「子どもたちが“生きていて楽しい”と思える社会をつくることは大人の責任」として、臨床のかたわらさまざまな活動を行っている。

一般社団法人 Yukuri-te のホームページは
右のQRコードから→



先生のご著書の一つ、絵本『みんなとおなじくできないよ～障がいのあるおとうととボクのはなし』石井聖岳イラスト／日本図書センター

障がいのある「同胞」
その兄弟姉妹が「きょうだい児」

「きょうだい児」は同胞のことが大好きなのですが、世間が偏見を持っていることを知り、同胞を恥ずかしいと思ってしまうことがあります。そして、そんな自分に罪悪感を覚える。あるいは、一生同胞の面倒を見なくてはならないという将来への不安もありますし、「同胞と同じように、自分にも障害や病気があるのでは？」と動揺したり……。

そうしたモヤモヤが蓄積されて、行動が変化し、ときには不登校になることもあります。こうしたとき、まわりの大人——特に親からのコミュニケーションが不安解消に役立ちます。

挨拶は最強のツール

時間はかかっても確実に改善

親は同胞のケアだけで精一杯だと思いますが、できるだけ「きょうだい児」とコミュニケーションをとってほしいと思います。私のおすすめるは、小さな試みではありますが、「挨拶を交わす」ことです。

「おはよう」「ごいっしょ」「おや

すみ」…ほんのひと言だけでいい。それを増やすというちょっとしたことです。

しかし、挨拶は、相手の時間を奪わず、相手に影響を与えられる最強のツールなのです。変化がわかるまでは半年以上かかるかもしれませんが、その効果は、一時的な薬などとは違って長期的で持続的。一生役に立ちます。

必要なコミュニケーションを生み出す大人の心の余裕

「きょうだい児」に限らず、子どもは自身が抱える悩みを言いません。もしかしたら本人自身も悩みを認識していないかもしれない。しかし、それは、イライラしやすくなったり、頭痛が頻繁に起こったり、些細な行動に現れます。できれば親はこの段階で気づいて、意識的にコミュニケーションをとるようになってほしいと思います。

とはいえ、親も、社会の理解のなさに苦しみながら、同胞の世話で一杯でしょう。ですから、私たちは、親の心の余裕をいかに作っていくかを考えなければなりません。

子どもが生きやすい社会を作る前に、まずは大人が生きやすい社会をどう作るか……そこが問われているのではないのでしょうか。



オンライン
喫茶 **結**
[ゆい]

2023年3月10日、WAMより助成を受けた
専門家によるウェビナーは東豊先生！
[結] がスーパーバイズをお願いするほど
スタッフからの信頼を絶大に集める
「天才心理療法家」の登場です。

システムズ アプローチ について 聞いてみよう

臨床心理学者
東豊先生に

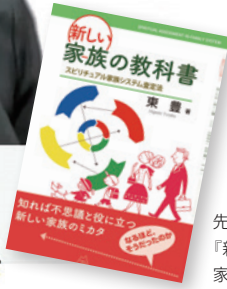
あなたが変わるとみんなも変わる？

ひがし
ゆたか



東豊先生 Yitaka HOGASHI

龍谷大学文学部臨床心理学科教授
医学博士、臨床心理士、公認心理師
専門はシステムズアプローチ、家族療法。
著書・共著多数。近著に『マンガでわかる家族療法
(現在2巻まで発行)』武長藍イラスト/日本評論社など。



先生のご著書の一つ、
『新しい家族の教科書—スピリチュアル
家族システム査定法』逸見書房

東先生

正論ばかりで私を責める夫
夫婦の意見が不一致

たとえば、子どもが不登校のご夫婦。夫は「学校に行くのが子どもの仕事だろー」と言い、「休んでもいいんじゃない？」と思う妻は、夫と足並みを揃えられないことに悩んでいる……こんな相談はよくあります。

さて、夫婦の意見が一致しないことの何が問題なのでしょう？

夫婦の意見がちがうのなんて当たり前。考え方が何もかも一緒のほうがいいなら、それでいいと思いますね。

むしろ夫をどう使うか……。夫には夫の事情があり、メンツもある。夫婦の歴史があり、夫の性格もある。そのあたりを考えながら、夫を「妻の応援団」にしていってください。

母の「元気」は家庭に伝染する
努力の方向を変えてみよう

30代のひきこもりの子を持つ母親から相談を受けていたときの話です。母親はだんだんと元気になり、趣味に邁進しはじめます。すると、父親もなぜか元気になり、両親揃って相

談に来るようになりました。そうしているうちに、なんと今度はひきこもりの子どもから予約の電話が入りました。「両親が妙に元気なだけで何をしたらか教えてほしい」と言うんです。

こんなふうには、家庭内で「元気」は伝染します。「子どもを元気にするよ」とするあまり憔悴している親御さんが多いのですが、努力して結果が出なければ、努力のベクトルを変えたほうがいいかもしれません。まずは自分が元気になることを試してみてください。どうでしょうか。

家庭内のドロドロを
カウンセリングに置いてくる

問題を抱えた家庭はドロドロしています。怒りや憤り、イライラやモヤモヤが渦を巻いています。そのドロドロから子どもだけを救い出そうとするのは難しいことです。まずは、自分から抜け出してください。

そのためにカウンセリングがあります。家庭内のドロドロをカウンセリングに持って行って置いて帰る。家庭に戻るとまた泥まみれでしょうが、さらにそれをカウンセラーに渡す。その繰り返しです。すると少しずつ、家庭からドロドロが減っていくはずですよ。

コロナ禍の影響で大学中退。 罪悪感を抱え葛藤する子ども。

コロナ禍の孤独な大学生活。
「もう大学を辞めたい」。

夏休みに開催した子育て応援ウィーク「中退・休学したときの対処法」に参加した母親から、個別相談の依頼がありました。

コロナ禍のため、大学の入学式も授業もオンライン。わからないことを聴くこともできない孤独な状態で大学生活を送った子どもが大学3年生になり、就職活動に突入。しかし、学生生活にもエピソードがなく自己PRすら考えられない。そうこうしているうちに、気持ちは落ち込みがちになり「大学を辞めたい」と大学中退を選択したそうです。

反応がないとわかっていても
挨拶だけは必ずすること。

「中退したら就職することすらできない」と思い込み、罪悪感を抱えた子ども。なんとか子どもを助きたい保護者は「将来はどうするの?」と聞き続け、関係が悪化。まったくの無反応になってしまったのだとか。

「結」からは、子どものエネルギー



回復を待ち、それを見守るよう提案。そのうえで、たとえ無視されたとしても「挨拶」だけはするようお願いしました。反応がないとわかっていのに「挨拶」するのはつらいことです。

「修行ですね」と話す保護者を「結」スタッフは励まし続けました。

すると、ある日、子どもから少しずつ反応が戻ってくるようになったのです。今ではお互いに挨拶しあい、リビングで一緒に過ごすこともできるようになりました。

これからのことはまだわかりませんが、しかし、子どももエネルギーが溜まれば自ら動きだすと、私たちは信じています。

このままでは8050になってしまおう! 離れて暮らした親子の関係。

子どもは無職で昼夜逆転。
母親も職を失ってしまった。

事情があり幼いころから子どもと離れて暮らしていた、ひとり親世帯の母親からの相談です。子どもが成人して一緒に生活しはじめたが、困っているとのこと。

聞けば、子どもは職場が合わず鬱状態となり退職。その後は家でゲーム三昧の昼夜逆転生活で、親子で口論が絶えません。母親はコロナ禍で職を失い、生活にも困っている状態で精神的にもつらそうです。

「このままでは8050になってしまおうじゃないでしょうか?」
母親はそんなふうに言いました。

暴言を吐く子どものことを
嫌いになりそうで怖い。

「結」で困りごとを因数分解したところ、「仕事」「生活・お金」「子ども」の3点が浮かび上がりました。

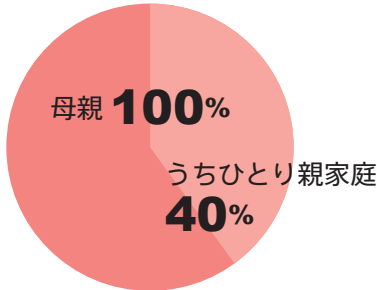
「仕事」に関してはハローワークに同行。「生活・お金」は行政の窓口とフードバンクにつなげ、ひとまず生活を整えることができました。



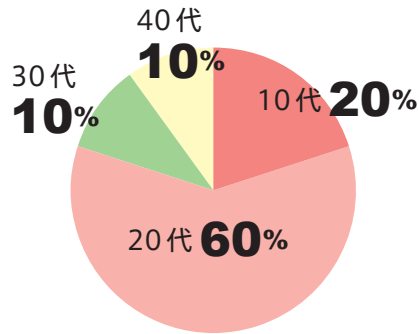
最大の悩みは「子ども」との関係性づくりです。母親の願いは「子どもと穏やかに暮らす」ことですが、子どもから暴言を吐かれると「嫌いになりそうで怖い」とのこと。そこで、「結」から、「子どもが嫌い」のではなく、「問題行動を起こす子どもが嫌い」なのは普通のことだと伝えました。そして、子どもと問題行動を分ける「外材化」の考え方をアドバイスすると、母親は少し気持ちが楽になり、前向きになっていきました。

今では、たわいない日常会話が増え、一緒に買い物に行ったりすること。母親も仕事が決まり、子どもが家事分担するほどになったそうです。

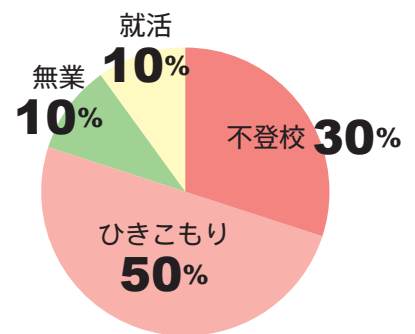
参加した家族（続柄）



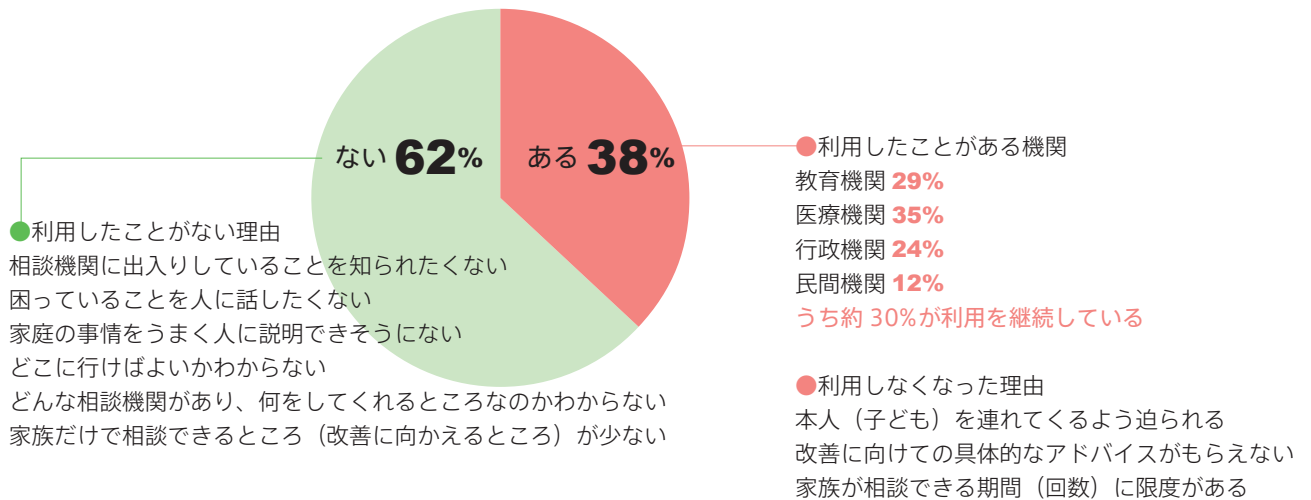
本人（子ども）の年齢



困りごとの種類



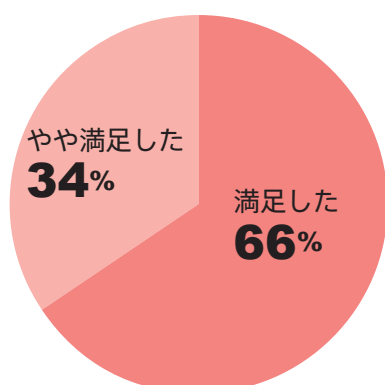
これまで相談・支援機関を利用したことがありますか



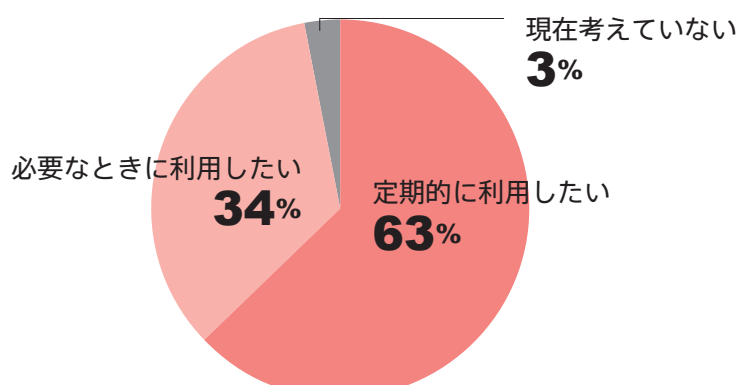
オンライン相談を利用した感想

- うちの近くには相談機関がないが、オンラインだとどこの機関にも相談できる
- 行き帰りの時間と体力が必要ない
- 相談機関に出入りしているところを見られないことがない
- 本人に聞かれるかもしれないので、自宅からはできない（駐車場で車の中からオンライン相談した）
- 最初は年寄りの自分にできるのかなと思ったが簡単にでき、非常に便利だった

[結] を利用した満足度



[結] の継続利用について



連続講座参加者へ参加動機・参加した感想をヒアリングしました。

自分の状況にピッタリの講座があったので参加

中学になると反抗的になり、スマホを与えてからはゲームやSNSに夢中になり、話しかけてもスマホから手を離さなくなりました。

中学3年生になってからは、遅刻や早退が多くなり、成績も低下。先生からは「公立高校は難しいかもしれない」と言われました。

現状の子どもとの関係性は最悪で、子どもの反抗的な態度に私はいつもイライラ。会話が成立しません。

「子育て応援ウィーク」に、「急に始まった！反抗・罵声・無視」というテーマがあったので、我が家にびつたりだと思いつきました。

学んだことは「対決」ではなく「共有」。子どもと「運命共同体」になることだと自覚。殺伐とした家庭の中で、まずは挨拶からはじめようと決意しました。もちろん無視され続けましたが、そのつらさを個別相談で聞いてもらいました。

何ヶ月か経った今では、将来の話ができるようになり、受験に向けて家族で乗り越えようとしています。

自分の中にあつた偏見に気づき子どもの気持ちを理解

コロナ禍で父親の事業がうまくいかず、家の中はピリピリしていました。

そんなとき、私立高校に行っていた子どもが「家計が大変だから」と退学を希望。自ら、値段が手頃な定時制高校を探し出してきました。

子どもが定時制高校に移ってから、父親は傾いた事業の立て直しに必死で、私もパートに出ることになり、親子の会話が希薄になっていました。

「子育て応援ウィーク」の「中退・休学したときの対処法」にひかれ、講座を受講しました。

私は、「定時制高校への転学」に偏見があつたことに気づきました。レールから外れてしまった子どもは、大学にも行けないし、まともな就職もできないと思いついていたのです。でも、昔と違って今はいろいろな定時制があり、子どもも進学を視野に高校を選んでいくことがわかりました。

偏見を正してもらつたことで、父の事業や家庭を心配する子どもの気持ちが見えて、子どもを信頼しようと思つています。

相談してもいいのかどこに相談すればいいのか

年金暮らしの私たちは、30代にもなつて定職に就かない子どもを抱え、このままでは「8050」になつてしまふのではないかと心配していました。しかし、こんなことを相談してもいいものか、どこに相談したらいいのかわかりませんでした。

「子育て応援ウィーク」の「困ったときのSOSの出し方、頼れる相談先の探し方」というテーマを見て、何かわかるかもしれないと講座に参加することにしました。

講座では「ピンチはチャンス！」という言葉に励まされました。しかも、似たような事例が紹介されたことで自分たちだけで抱えるのではなく、頼れる先を探し相談したほうが良いと思うことができました。

そうは言っても、相談するまでには時間がかかりました。酒を飲んで暴れ通報されたことがあったため、犯罪をおかすような30代の子どものことを相談してもいいのか悩んだのです。相談後の今は、うちだけが特別でないことがわかつて安心しています。

匿名性が高くないと参加することができない

最初の参加はセミナーでした。YouTubeで公開されていたのを見ることができました。私の個人情報は必要なく、ただメールアドレスだけで参加できたからです。どんな団体か行つて根掘り葉掘り聞かれたあげく、なんのアドバイスも貰えなかつた経験があつたので、個人情報をおかすことに躊躇していました。

YouTubeで「結」の他の動画も見て、「こんな大丈夫かもしれない」と思いましたが、まだワークショップや個別相談を申し込むことはできず、講座に申し込むのがやっとでした。

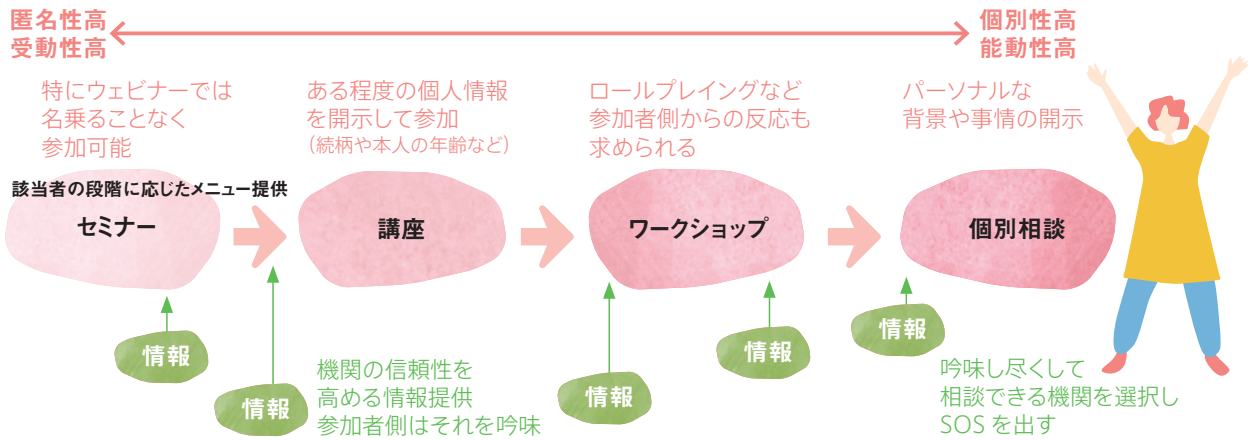
講座でスタッフの話すことや人となりを知ることができて、ようやくワークショップ・個別相談にいたりました。

一度支援機関で失望してしまつたと、また他の支援機関に相談するのはためらいます。だから、どんなところなのか、どんな人がいるのか、何をしてくれるのかを吟味し尽くさないと参加できないんです。私のような人は多いと思います。

オンライン講座・ワークショップ…… SOSを出しやすい仕組み

SOSを出しやすい仕組み

連続講座実施でわかった SOSまでの流れ



- 困りごとを可視化・言語化する
「私の家庭だけじゃない」ことがわかる
困りごとを因数分解する(そのために対話する)
- 相談・支援機関はどこなところかわかる
どこに行けば何をしてもらえるか
どうすればそこへたどりつけるのか
- 信頼できる相手の見つけ方
相談・支援機関情報の探し方がわかる
雰囲気を知るための方法を知る
複数の機関を利用する方法を知る

また段階を踏む間は、たえず**信頼性を高める情報**(左参照)を提供し、**該当者に吟味・納得**してもらうことが重要となる。

匿名性が高いため気軽に参加できるセミナーから、講座・ワークショップと、**徐々に個別性(能動性)の高いものへと移行**することで、SOSが出しやすくなるステップが必要。

「気軽に相談」はできない。SOSできない気持ちを知る。

私たち相談・支援機関は、「気軽に相談してください」と言い立て、「相談件数が少ない」と嘆いています。そこには「SOSを出しやすくする仕組み」という発想がありません。

「結」を運営し、今回の連続講座を開催する中で見えてきたのは、パーソナルな事情(特に相談者自身が、恥だと考える家庭内での困りごと)を相談員に話すことは、相談・支援機関が想像する以上にハードルが高いということでした。

SOSまでの段階に応じたメニューを幅広く用意する。

該当者の心情を踏まえ、私たちは、該当者がSOSを出せるよう、その障壁となるものを取り除いていかなければならないと考えるにいたしました。

まず必要だと考えられるのは、いつでもどこからでも取得できる情報を所定の場所にたえず置いておくということです。「結」では、今回行ったセミナーをYouTubeにアーカイブすることで、日々視聴数を伸ばし続けています(ちなみに2年前に配信し累計2.1万回視聴を記録しているものもあります)。同時に、

オンラインの操作が苦手な人向けに、雑誌風の情報誌(紙媒体)等の必要性も感じました。

そうしたマスのな情報提供に加え、講座やワークショップなど、個別性・能動性が高くなくても参加できるメニューを用意することで、段階を踏みながら(この機関は信用できるのか)をたえず考えながら恐る恐る足を踏み出す)、個別相談へと向かうことができます。

オンラインの可能性と自治体との連携に向けて。

先にも述べたようにオンライン(たとえばYouTube)には「どこからでもできる」というメリットがあります。

家族支援を行う機関は少なく、地方によっては熟練スタッフを確保できない場合もあるでしょう。ましてやマスのな情報提供に講座やワークショップまで兼ね備えた仕組みを持つところは限られています。しかし、「オンライン」という観点をプラスすれば、全国どこであつても(海外でも)一連の仕組みを提供することができそうです。

今後、「結」は、SOSを出しやすくする仕組みを強固にし、各地と連携しながら、「二人で問題を抱える人」を減らしていきたいと考えています。